

第43回 日向市人権・同和問題市民講演会

講演会スケジュール

13：05～15：45
「拳と祈り―袴田巖の生涯―」
ドキュメンタリー映画上映

15：55～16：55
袴田秀子さんと笠井千晶監督講演会


袴田秀子さん

〈手話通訳有〉
〈託児サービス〉11月６日㈮までにお申し込みください。

［日時］2026.11.19㈭
［開演］13:00　［開場］12:30～
［場所］日向市中央公民館ホール
〒883-0046　日向市中町1番31号

入場無料

先着420名様
要事前申込

事前申し込みは
コチラから

二次元コードによる申し込みが難しい場合は、電話で申し込みください。

主　催　日向市、日向市人権・同和問題啓発推進協議会

お問合せ　日向市 地域コミュニティ課
☎0982-54-0227



「拘置をこれ以上
継続することは、
耐え難いほど
正義に反する」
（静岡地裁）

釈放当日――。
世紀の瞬間の舞台裏を撮った、
1台のカメラがあった。

2014年3月、東京拘置所。死刑囚の袴田巖さんが、突如釈放された。1966年6月に静岡県で味噌会社専務一家4人が殺害され、放火された事件の犯人とされ、47年7ヶ月もの獄中生活を送ってきた。明日突然、死刑が執行されるかもしれない。そんな恐怖の日々をくぐり抜け、30歳の青年は78歳になっていた。着の身着のままワゴン車で東京拘置所を後にした時、本作監督の笠井千晶が助手席でまわすカメラが捉えたのは、まるで夢から覚めたような袴田さんの表情だった。その夜、半世紀近く引き裂かれていた姉と弟が枕を並べた。拘置所の壁に隔てられ、想像を絶する苦難を生き抜いたものの、奪われた時間は戻らない。なぜこれほどの試練が与えられなければならなかったのか。さらに続くことになる司法との闘いを覚悟しながら、カメラは2人の生活を記録し、対話を重ね、袴田さんの心の内面深くに迫っていく。



拳ひとつで闘った記憶は生き抜くための支えとなった。
前代未聞の釈放から10年、ついに再審判決を迎えた――。





プロボクサーとして青春を駆け抜けた袴田さんは30歳で突然、逮捕された。無実の訴えは裁判所、そして世間からも黙殺された。そんな過酷な状況下でも、リングに上がり拳ひとつで闘った遠い記憶は、生き抜くための支えとなっていた。やがて袴田さんは獄中で、自らを「神」と名乗り始める。一方で、釈放され故郷・浜松に戻ってからもボクサーとしての記憶が袴田さんの足を思い出の地へと向かわせる。生きて歩く死刑囚――。その存在は、権力によって覆い隠されてきた「死刑」という刑罰の残酷さを、白日のもとに晒す。時に人の理解を超えた袴田さんの言動が意味するものとは何なのか。映画は、やがて一つの答えにたどり着く。

釈放から10年の節目に完成する本作は、死刑囚のまま生きることを強いられた、袴田巖さんの闘いの軌跡だ。22年間にわたって袴田さんを追い続けてきた笠井監督は現在もカメラを回し続けている。そして、2024年9月26日の再審無罪判決を見届け、いよいよ劇場公開される。

笠井監督からのメッセージ

袴田さんが釈放された日のことは決して忘れません。この人の存在を後世に語り伝えなければと、強く意識した瞬間でした。本作は、冤罪や死刑囚という言葉で括られてきた袴田さんを、一人の人として伝えます。明けない夜はない。袴田さんの言葉にぜひ耳を傾けてみてください。



公式サイト
hakamadafilm.com



お問合せ　日向市地域コミュニティ課　☎0982-54-0227